

- ・「フリートーク」「ほめ言葉のシャワー」参観
- ・菊池先生と児童の授業を参観(3年2組・5年3組)
- ・菊池先生による学級経営についての講義

本校では、“学級経営”を研究の柱の一つとして掲げ、児童と実践を積み重ねています。なぜなら、教科・領域の学習を下支えするものが学級経営だと信じているからです。今回、講師としてお招きした菊池省三先生から学ばせていただいた学級経営について研究を進めて十数年。試行錯誤しながら児童と実践を重ねてきましたが、このタイミングで菊池先生からのご指導をいただくことで、児童の学びのさらなる充実に繋がたいと考え、このような学級経営研修を実施しました。



<「フリートーク」「ほめ言葉のシャワー」参観>

2校時に「フリートーク」を9学級、3校時に「ほめ言葉のシャワー」を9学級、全学級がどちらかの取組を菊池先生にご参観いただきました。

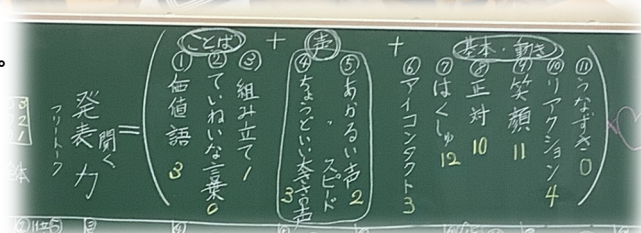
「一度に、全学年・全学級の取組を参観できることは大変貴重。全校で取り組み、それを毎年積み重ねていることが素晴らしいし、やはり大切であることを再確認できました。」等のお話をいただきました。

<菊池先生と児童の授業を参観(3年2組・5年3組)>

菊池先生が、4校時に3年2組、5校時に5年3組の児童に授業をしてくださいました。

4校時の3年2組の児童との授業では、「フリートークにおいて3年2組が大切にしていること」について、児童が自覚して、さらに「フリートーク」を通して、楽しく成長していきたいという気持ちになる授業をしてくださいました。

まずは「フリートーク」で大切な11個のポイント(右写真)の中から、個人で上位3つを選択し、その後グループで話し合い、最後に3年2組で大切にしているポイントについて確認していきました。結果は「1位:拍手、2位:笑顔、3位:正対」となり、児童はこれからも「ことば」と「声」と「基本・動き」を大切に発表力や聞く力を磨き、「フリートーク」を楽しんで行こうという気持ちを持って菊池先生との授業を終えました。



5校時の5年3組の児童との授業は、「ほめ言葉のシャワーは“儀式”か“祝祭”か」という菊池先生からの問いに対して、児童が自分の考えを伝え合いながら「ほめ言葉のシャワー」の在り方や良さについて確かめ合えるような授業でした。



「ほめ言葉のシャワー」は「儀式」だと考えた児童からは、「全校で取り組んでいるから。」「一人（主役）に対して丁寧に行うものだから。」「“儀式”も拍手をする。楽しむだけでなく、いいところを見つけ合って相手と仲良くなることがほめ言葉のシャワーの目的だから。」等の考えが語られました。

「祝祭」と考える児童からは、「主役の人をほめる（祝う）ものだから。」「ほめられると嬉しい（ハッピーな感じ）から。」「自分が主役になるのが、1年に1～2回しかないから。」「“祝祭”の方がみんなで考えて進化させていくというイメージがあるから。」等の考えが語られました。

最後に、両方の要素が大切であることを菊池先生と確認した上で、数名の児童が「ほめ言葉のシャワー」で大切にしたいポイントを意識して、担任にほめ言葉を伝えて授業を終えました。



<菊池先生による学級経営についての講義>

児童下校後、職員に対して講義をしていただきました。ご講義の中では、「10割ほめる」「ほめて、認めて、励ます」「ライブ感」「日常に生かす」「教室は“公共の場”」「“失敗”は、次に繋がる成長のチャンスだから、マイナスではなくプラス」等、教師が児童と向き合う上で大切な心構えとなるキーワードをたくさん示してくださいました。



また、今後の学級経営の取組の改善点として3点ご指導をいただきました。

① 「フリートーク」の“お題”について

発達の段階に合わせて、児童の思考がより深まるものになるといい。“お題”をより工夫することで、お互いに自己開示し合うことができ、「フリートーク」を通してコミュニケーションの本質に向かうことが期待できると考える。



(例)「国語と算数、どちらが好き？」→「好きな教科は？」→「一番ワクワクする教科は？」

「カレーとハンバーグ、どちらが好き？」→「好きな食べ物は？」→「“生きてる!”と感じる食べ物は？」

② 「ほめ言葉のシャワー」について

もっと“祝祭”の要素が加わるといい。「ほめ言葉のシャワー」は“互いに成果を祝い合う祭”。

初めは、システムがしっかりすることも大切だが、より“能動的”に参加できるような形に児童と作っていきたい。(例)席順でほめ言葉を伝える → 自由起立でほめ言葉を伝える 等

③ 児童同士（他学年）で、取組を見合う

さらなる成長に繋ぐためには、他学級との比較をすることで自分たちの現状を知ることが大切。他学級を参観することで、刺激を受けたり憧れを持ったりし、自分達の取組をブラッシュアップしていけるといい。

職員全体で、菊池先生のお話を聞いたり、授業を参観させていただいたりした経験は、今後本校の研究の柱の一つとして学級経営の実践を積み上げていくために大きな財産となりました。

菊池先生から多くの学びをいただいた1日を通して、今後も、学校での活動の中で児童の良いところや成長した姿を、敏感に見つけて積極的に褒めることで、児童の成長に携わっていきたいと強く考えました。